

カリキュラムの変遷と中国語教育

現代中国学部はこれまで学部開設時のカリキュラムに、2002年、2006年の二度大幅な手直しを加えて、前後三つのカリキュラムを順次展開してきた（各カリキュラムは58ページ以下に掲載）。現在、3年生までが2006年の新カリキュラム（06カリ）を履修する一方、4年生以上は2002年改訂のカリキュラム（02カリ）を履修している。新旧カリキュラムの移行期は、多かれ少なかれ運営上の負担を教員・職員に強いるものであるが、現代中国学部の場合、カリキュラム改訂が大幅なものであっただけに、その運営にはとりわけ多くの苦心がともなっている。しかし、この二度のカリキュラム大改訂は、全学的なカリキュラム再編の一環という側面があると同時に、現代中国学部自身が主体的にFD活動（FD：Faculty Development。教育内容・方法を向上させるための取り組み）を行い、教学体制を不断に見直し改善に努めてきた結果でもある。ここでは、このカリキュラム改訂作業について、当時の教務委員（2005年度から教学主任）と学部長に振り返ってもらい、あわせてこのカリキュラムの変遷の中で中国語教育がどのように実施されてきたかを、中国語教育の責任者に語ってもらおう。（編集部）

カリキュラムの推移

前教学主任 高橋五郎

現代中国学部のカリキュラムは学部開設から5年目に当たる2002年度カリキュラム、その4年後の2006年度カリキュラムの2回に及ぶ改正を行って今日に至っている（52ページの表を参照）。一度作ったカリキュラムは、最低8年間は継続するので、2002年度カリキュラムのスタート時には開学時（1997年度）の古いカリキュラムが2004年度まで、その4年後の2006年度カリキュラムのスタート時には2002年度カリキュラムが2009年度まで継続することになっていた。

◇1997年度カリキュラム（開学時）

まずこれまでのカリキュラムの推移を見るために、現在の2006年度カリキュラムのベースともなってきた学部開設時のカリキュラムに触れておく。その大きな特徴は、名古屋校舎の他の2学部（法学部・経営学部）がそれぞれの学部の専門科目を除き外国語、一般教育科目を共有していたのに対し、現代中国学部の場合は固有のカリキュラムを持っていたことである。中国語・英語・日本語を除く語学科目、一般教育科目や専門科目の一部については他学部の兼任教員に協力を仰いでいたが、カリキュラム自体は学部固有であった。

その主な構成は基本科目（一般科目に相当）、外国語科目（中国語・英語・留学生向け日本語）、基幹科目（学部専門教育の基礎となる科目）、応用・発展科目（政治経済・言語文化・国際関係の3コースに対応する、より専門性の高い科目）、現代中国学演習であった。

◇2002年度カリキュラム

このような形でスタートした学部カリキュラムであったが、完成年度を経て、学部教育のあり方を教員全員参加による学部ワークショップなどで議論する過程で、カリキュラム改革の方向性が見え始めた。そこで取り組まれた結果生まれたのが、2002年度カリキュラムであった。

2002年度カリキュラムにおける最も大きな変更点は、専門教育科目以外の科目群、つまり基本科目・中国語を除く外国語科目・体育科目などを名古屋校舎全体のカリキュラムの中に共通化したことである。従来A群・B群としていた基本科目を他学部に合わせて人文、社会、自然、数理・情報、総合に分け、これに若干の学部固有科目を設けた。しかも他学部提供科目として法学部・経営学部の専門科目の一部を現代中国学部の共通科目（「他学部提供科目」）として設け、教育と学生の選択の幅を持たせた点が特徴である。

学部固有の教育科目としての大きな変更は、中国語教育のための現地プログラムを、中国語教育の効果を高めるとの意図から、第2セメスターから第3セメスターに変更したことである。

もう一つの大きな変更点は、主に留学生向けとして新たに日中ビジネスコースを設けたこと、現地プログラムの実施セメスターの変更に伴う第4セメスター以降の中国語教育科目として、また中国語能力の高い学生がさらなる能力向上を図るため、中国語インテンシヴ科目群を5科目設けたことである。さらに専門演習が必修科目であることから、中国等への留学帰国学生が4年間で単位の修得ができるよう配慮し、専門演習を通年4単位から春秋セメスター各2単位に改めた。

2002年度カリキュラムの実施にともなって、基本科目に属する科目数は33科目から122科目へ、基幹科目及び応用・発展科目数は73科目から105科目へ増え、教育の範囲及び学生の科目選択の幅が大きく拡大した。

◇2006年度カリキュラム

2006年度カリキュラムは、大学全体の教学資源のいっそうの有効活用を図るとの意図を含んで生まれたものである。

そうした観点から2006年度カリキュラムは2002年度カリキュラムをさらに一歩進めて、基本科目・外国語科目・体育科目を名古屋校舎全体で共通化し、基本科目という名称も名古屋共通教育科目とした点が大きな変更点である。同時に、全学的な方針のもと、共通教育科目を研究専門分野との関連を考慮しながら教員全員が担当する方針が採用された。このため名古屋校舎全体で設けられる共通教育科目の質を改善することになり、科目数（外国語科目を除く）については122科目から151科目となった。

現代中国学部の専門教育の骨格も大幅な変更を行った。第1の変更は学生のコースをビジネス、言語文化、国際関係の3コースに集約、それに対応して従来の基幹科目、応用・発展科目を専門教育科目として一元化し、科目を三つのコースに15科目程度ずつ配属し、別途3コース共通科目群（専門共通部門）として24科目を設けたことである。第2の変更は現地プログラムを含む中国語科目を学部の専門科目に繰り入れ、かつ現地プログラムのための事前教育科目を設けたこと、中国現地研究調査を中国現地研究実習として現代中国学演習から切り離し、併せて、事前教育科目として現地研究実習基礎を設けたことなどである。また中国語能力の向上対策として、中

カリキュラムの推移（主に日本人学生の場合）

1997年度カリキュラム（開学時）			2002年度カリキュラム			2006年度カリキュラム		
	科目数	要卒単位数		科目数	要卒単位数		科目数	要卒単位数
基本科目	33	24以上	基本科目	122	20以上	名古屋共通教育科目	208	37以上
A 群	7	8以上	人文	23	} 20以上	外国語科目	57	14以上
B 群	26	16以上	社会 *5	38(24)		英語	23	4以上
			自然	11		日本語	14	10以上
			数理・情報	18		その他 *6	20	} 8以上
			総合	9		自然	37	
			学部固有科目	7		社会	28	
			その他 *4	16		人文	19	
					総合	5		
					体育	5	3以上	
外国語科目	48	16以上	外国語科目	54	18以上			
中国語	16	16以上	中国語	16	16以上			
英語	6	選択 *1	英語	10	2以上			
日本語	10	10以上 *2	日本語	12	8以上			
その他 *3	16		その他 *3	16				
			体育科目	7	4以上			
情報処理科目	4	4以上				専門教育科目	125	87以上
基幹科目	27	30以上	基幹科目	30	24以上	専門共通部門	24	14以上
						ビジネス部門	15	42以上
応用・発展科目	42	20以上	応用・発展科目	75	26以上	言語文化部門	16	42以上
政治経済コース	12		政治経済部門	15		国際関係部門	15	42以上
言語文化コース	12		言語文化部門	17		中国語強化部門	6	
国際関係コース	12		国際関係部門	15		外国書購読	2	
			日中ビジネス部門	6		実習部門（現地研究）	1	
			中国語インテンシヴ	5		語学部門（中国語）	19	17以上
			コース共通部門	17		現プロ関連部門	5	
現代中国学演習	6	16以上	現代中国学演習	8	16以上	中国語情報部門	2	
入門ゼミ			入門ゼミ			現代中国学特殊講義	1	2以上
基礎演習			基礎演習			他学部部門	7	
専門演習Ⅰ	4		専門演習Ⅰ	2		教職課程科目	4	
専門演習Ⅱ	4		専門演習Ⅱ	2		演習部門	8	12以上
中国現地研究調査			専門演習Ⅲ	2		入門演習		
卒業研究	8		専門演習Ⅳ	2		基礎演習		
			中国現地研究調査			ブレ演習		
			卒業研究	8		専門演習Ⅰ	2	
自由選択科目		14以上	自由選択科目		16以上	専門演習Ⅱ	2	
						専門演習Ⅲ	2	
						専門演習Ⅳ	2	
						卒業研究	4	
計		124以上			124以上			124以上

*1：中国語を母語とする学生は6単位以上必修

*2：外国人留学生のみ必修

*3：ドイツ語、フランス語、ロシア語、コリア語

*4：中国事情、日本事情、海外セミナーなど

*5：（ ）内は「他学部提供科目」で内数

*6：海外セミナー、外国理解（英、独、仏、中、韓）

*7：自然科学分野から8単位のほか、同分野を含む社会・人文・総合の各分野から12単位を履修

国語強化部門に6科目を設けた。第3の変更は、専門演習科目関係の変更である。具体的には入門演習と基礎演習を全員履修科目としたこと、中国人留学生の教育の充実、基礎演習などから専門演習への橋渡しの意味及び現地プログラム直後の演習教育などの意味から第3セメスター及び第4セメスターにプレ演習を設けたことである。これには、演習教育の4年間一貫教育を図るとの意図があった。第四の変更は英語教育及び中国語情報科目の整備を行い、英語については英語能力の向上を図る意味から必修単位数を従来の2単位からTOEIC 2科目を含む4単位に、中国語の情報処理教育の充実を図る意味から中国語情報部門を2単位選択必修とするなど改善を図った。

2002年のカリキュラム改革

第2代学部長 今泉潤太郎

実践的な中国語教育と総合的で深い中国理解の育成を目指して、1997年4月に開設された現代中国学部においても、折から進行中の教員数の定員化とカリキュラム再編という全学的課題の検討がなされていた。

学部の完成年度となる2002年度から実施された新カリキュラムでは、名古屋キャンパス3学部共通科目が設定されるとともに、法学部提供科目、経営学部提供科目も設置された。学部のカリキュラムとキャンパス全体のカリキュラムが調整されたことは、とりわけ学部完成年度以前はあらゆる面で固定化されていた現中学部にとっては、履修分野と科目が一挙に飛躍的に増大される結果となった。

また、留学生定員枠をもつ現中学部では、留学生教育は最重要課題の一つであった。なかでも外国語教育では中国人留学生に対して必修として日本語をベースに英語を加えたカリキュラム、韓国人など中国人以外の留学生に対して必須としての日本語と中国語のカリキュラムで実施してきた。これを、中国人留学生は単位数を減らすとともに、日本語のみを必修とした。一方、従来の政治経済コース、言語文化コース、国際関係コースに加え、留学生の要望に応えた日中ビジネスコースを新たに設置し、総体として一段の充実を図った。

この他、現中学部を特徴付ける中国現地プログラムの実施時期を第2セメスターから第3セメスターに移したことは、単に中国語の分野の問題に止まらず、学部教育の全般に影響を及ぼす重大な変更であるが、厳しい検討の末に実施された。

現中学部の掲げる目標をカリキュラム上にどのように具現化するかはきわめて重要なことであり、今後も適切に、慎重かつ大胆に行うべきである。学内の動向と歩調を合わせる必要があるのは無論であるが、現中学部の性格上、常に中国の動向にも重大な関心が寄せられて然るべきであろう。

現代中国学部のカリキュラムは、1997年の学部設立当初から、「中国を深く理解し、日中間の橋渡しとして活躍する人材を養成する」という学部の理念・目的を具体化する内容となっていた。それは一言で言えば「現地重視」の教育であり、カリキュラムである。

具体的には、1年生全員が南開大学で約4カ月間、中国語を中心に学ぶ「中国現地プログラム」であり、3年次の夏休み3週間、都市・農村で行われる「中国現地研究調査」である。南開大学での「現地プログラム」は現地で生活しながら中国語を中心に学ぶものであり、実践的中国語教育となっている。「現地研究調査」（現在は「現地研究実習」と呼ぶ）は、自ら中国の農村や企業に入り込んで、机上で学んだ中国についての理解を確認し、深めることを目指したものである。

その他、学部カリキュラムの当初からの特徴は、充実した中国語教育、1年次の入門ゼミから3年次以降の専門ゼミまでの各年次の演習、必須の卒業研究（卒業論文）、中国を総合的に理解するための政治、経済、社会、歴史、文学など幅広い科目の配置などであった。

2002年の新カリキュラムでは、日中ビジネス部門を新設し4コースとした。また、教育効果をより高めるため、それまで1年次の秋に実施してきた「中国現地プログラム」を2年次春に移した。さらに2年次春の第3 Semester（現地プログラム）までの中国語の基礎を引き継ぐ第4 Semester以降の基幹科目を「中国語インテンシヴ」とし、さらに上級を目指すものとしての位置付けを明確にし、科目数も増やした。また、日本人学生の英語を必修にした。

2006年新カリキュラムでは現地重視のカリキュラムをさらに深めている。第1は、それまでの2本柱であった現地重視のプログラムに追加して、3本目の柱として「中国現地インターシップ」が入った。08年度から関連のカリキュラムを実施し、単位化することになった。第2は、実践的中国語教育のさらなる充実である。まず、中国語をそれまでの外国語科目から学部の専門科目に移した。さらに、「中国語インテンシヴ」を「中国語強化部門」とし、上級中国語科目を増やしている。現代中国学部の学生が全国中国語スピーチコンテストで優勝するなど好成績を挙げているのは、これまでの実践的中国語教育の成果といえる。第3に、専門ゼミへの移行をスムーズにする配慮から、入門ゼミ・基礎ゼミと専門ゼミとの間にプレゼミを入れた。

以上、97、02、06の三つのカリキュラムの推移を概観しただけでも、学部設立の理念・目的をいかにして具体化し、深めていくかに払われた努力、苦心が読み取れるといえよう。

現代中国学部の中国語教育

中国語運営委員会委員長 安部 悟

現代中国学部（以下現中と略す）の教育目標は、「日中の架け橋」となり国際的に活躍し得る優れた人材を養成することであるが、それは言い換えれば、中国語を使って日中間のさまざまな問題について議論し解決できる能力を備えた人材の養成ということであり、その根幹となるのが中国語教育である。

現中における中国語教育の特色は、4年次まで段階的かつ系統的に学べることだが、特に1年次から2年次前期までの初期段階で行われる短期集中型中国語教育は極めて重要で、1年次の基礎教育と2年次第3 Semester（当初は第2 Semester）に実施される中国現地プログラム（以下現プロと略す）での実践教育が有機的、体系的に結合したこの新しい中国語教育システムは、日本初の現代中国学部の開設という話題とともに注目を集め、近年では同様の教育システムを導入した大学も見受けられるようになった。

この教育システムの中核をなすのはやはり現プロである。4カ月という短い期間ではあるが、恵まれた環境や充実したカリキュラムの中で、学生の語学力、特にコミュニケーション能力を高めることと、生の中国を体感することにより、中国語学習や中国研究に対するモチベーションを高め、その後の学生の自覚的な取り組みの姿勢を形成する上で極めて重要な役割を担っている。この点については、「学部教育の三つの柱」（72ページ以下）の現プロの解説ですでに触れているのでここでは繰り返しを避け、現中の中国語教育全般について、主に2002年に実施されたカリキュラム再編を踏まえて解説していきたい。

現中では、中国人留学生を除く学生全員が第1外国語として中国語を履修し、第1 Semester（以下セメと略す）4単位、第2セメ4単位、第3セメ8単位の計16単位が必修となっている。また、この第1セメから第3セメにおいて、中国語既習者や中国での滞在経験者のために特別履修クラスを設け、他の一般学生とは異なるメニューで授業を行っている。このうちの第3セメが現プロであるが、学部開設当初は第2セメに実施しており、2002年度の新カリキュラムから変更された。この点から言えば、2002年は現中の中国語教育にとって大きな転換の年となったわけである。

現中の中国語教育は、基本的に統一教材、統一進度、統一試験、統一評価を原則としており、これは中国現地プログラムにも適用され、現地でのカリキュラムや教材も現代中国学部と南開大学漢語言文化学院の両者が協議した上で決定したものである。また特殊な科目を除いて、現在使用している教材はすべて学部単独、あるいは共同開発したオリジナル教材であり、この点は今も変わっていない。

第1セメでは、日本人教員が「中国語Ⅰ・Ⅱ」（文法）を担当し、中国人教員が「中国語Ⅲ・Ⅳ」（会話）を担当。教員同士が連携して交互に授業を行っているが、この点も同じである。ただ、現プロを第3セメに変更するに当たって、使用教材を『漢語課本』、『会話課本』から『中国語課本』（上・下冊）に変更し、通年学習が可能となるように改訂した。発音指導についても、当初はそれぞれの授業の中で行っていたが、時間的な制約もあって、十分な効果が得られなかったため、

2002年度から「中国語発音」の授業を新設し全員履修とした。また科目の新設に伴い、中国の協定校から毎年2名の先生をお招きして、当該科目を担当していただくことになった。この嘱託助教（TT）制度は、授業以外でもスピーチコンテスト参加者の指導や長期留学希望者の対応等においてとても大きな役割を果たしている。

第2セメでは、第1セメからの継続である「中国語V」（文法）、「中国語VI」（会話）と、「中国語VII」、「中国語VIII」及び「中国語発音」の授業が準備されている。このうち「中国語VII」では、『留学去』という教材を用い、第3セメの現プロを意識した留学時に必要な日常会話を学ぶ。「中国語VIII」は独自開発の学習ソフトを利用したパソコン中国語の授業である。これは学部の教育目標の一つである「情報科学の活用能力養う情報処理科目を設け、中国語ワープロを自在に扱うことができる能力を養うだけでなく、インターネットによる中国との直接的交流を可能にする」ということを意識して設けられた科目である。

当初第3セメに開講されていたのは、「中国語XIII」（パソコン）、「中国語XIV」（会話）、「中国語XV・XVI」（精読）であり、現在とは異なるものの、例えば「中国語XIII」の内容は現在の「中国語VIII」に受け継がれている。また「中国語XIV」も、使用教材は『説漢語』で現在とは異なるが、現地での会話を強く意識している点は共通している。大きく変わったのは「精読」をなくした点で、一つは第1セメとの連続性を重視したことと、もう一つは現プロから戻ってきた後のプレゼミ等で読解力をつけることになったためである。

第3セメでは、現地での実践的教育である現プロに参加し、「中国語IX」～「中国語XVI」を履修することにより、会話を中心としたより高度な中国語能力の習得を目指すことになる。当初現プロを第2セメに実施していた最大の理由は、前にも述べたが学生への「動機付け」を重視したからであった。この点から言えば確かに効果があったのだが、1年半の中国語集中教育という観点から考えると、日本半年、現地半年、日本半年というのは、学生にとってあまりに変化が激しすぎたとも言える。現在では、日本で1年間中国語の基礎をしっかりと学び、その仕上げとして現地で活きた中国語を学ぶことになり、系統的・段階的学習を行うことが以前より容易になっている。また、2007年度からは南開大学が開発した新教授法クラスを新設し、従来の教授法との比較を行っている。

第4セメ以降は選択科目として「コミュニケーション中国語I・II」、「日中ビジネス会話I・II」（当初は「時事ビジネス中国語I・II」）の他、ピンナン語、上海語、広東語等の「中国語方言」も開講されている。さらに中国人教員の中国語による専門講義科目を受講したり、3年次に実施される現地研究実習や現地インターンシップに参加することによって、自己の中国語能力のレベルアップを図ることが可能となっている。

さらに2002年度からは、通訳などの中国語エキスパート養成のための「中国語インテンシヴコース」を3年次以降に新設し、「中国語プレゼンテーションI～III」、「翻訳と解釈」、「同時通訳」といった科目を設け、さらにHSKや中検などの到達レベルによって一定の受講条件を設けて、学生にいい意味での刺激を与え、自覚的な中国語学習を促すものとなっている。このコースは、2006年の新カリから「中国語強化部門」と名称変更し、通訳や翻訳に限定しない中国語強化のための科目として、「中国語プレゼンテーションI～III」及び「上級中国語I～III」を設けている。

以上がカリキュラムからみた中国語教育の現状であるが、その成果についても少し触れておきたい。今回「スピーチコンテストへの挑戦」(100ページ以下)で紹介したように、全国規模のコンテストにおいて毎年のように上位入賞者を出しているし、地方レベルのコンテストにおいても、上位を独占するなど華々しい成果を取めている。また学生の卒業時における HSK の成績を見てみると、10級合格者が5名、9級が20名以上、8級は数十名といった具合で、他の外国語大学等と比較してもまったく遜色のない、むしろそれを上回るような成績を残している。さらに中国語を専門的に学び、「通訳案内士試験」に合格した者も複数いるなど、学生の中国語修得にかける熱意と努力の結果がこうした成果となって現われている。そしてそのような中国語力を生かして、国内外で活躍する OB・OG は数多くおり、現在中国で働いている人は10名を超えている。こうした学生や卒業生の活躍は、我々中国語担当教員の大きな励みとなっている。

実は、現中には中国語教育を担当する組織として中国語運営委員会(当初は中国語担当者会議)があり、そこが中心となって、中国語カリキュラムの改善を行うなど、これまでさまざまな問題に対応してきた。そこで議論されるのは、カリキュラムに関する問題だけではなく、授業法の改善、教材の開発、学業評価法の公正化、教育機器の活用、TT等の活用といった教育技法の改善や、近年各大学で行われるようになり、愛大でも重視されているFD活動の一環としての教育改革についてである。

現中ではこれまでも、時代とともに変化する学生のニーズに対応して、従来型の教育を見直し時代の変化に対応した理想的な教育のあり方を模索してきた。中国語運営委員会でも、理想的中国語教育モデルを検討するための共同研究(「中国語教育研究——現代中国学部における試み」『言語と文化』第10号、愛知大学語学教育研究室、参照)を行うなど、さまざまな努力を重ねてきた。こうした南開大学を含めた先生方の不断的な努力が現中の中国語教育を支えているのであり、正にそれが現中中国語教育の大きな特徴となっている。今後の課題も多いが、より理想的な中国語教育を求めて我々の挑戦はこれからも続く。

1997～2001年度カリキュラム

基本科目

区 分	科 目 名	単 位 数	配 当 セ メ ス タ ー								コース別履修要件			備 考
			1年次		2年次		3年次		4年次		政治 経済 コース	言語 文化 コース	国際 関係 コース	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ				
A 群	文 学 と 人 間	4	○								い ず れ か 8 単 位 以 上	い ず れ か 8 単 位 以 上	い ず れ か 8 単 位 以 上	
	憲 法 と 人 権	4	○											
	法 と 社 会	4		○										
	政 治 と 社 会	4		○										
	経 済 と 社 会 I	4		○										
	経 済 と 社 会 II	4			○									
	企 業 と 経 営	4		○										
基 本 科 目 群	現 代 思 想	2	○								い ず れ か 16 単 位 以 上	い ず れ か 16 単 位 以 上	い ず れ か 16 単 位 以 上	中国現地プログラム 中国現地プログラム 外国人留学生必修 教職課程履修者のみ履修可
	民 族 と 国 家	2		○										
	近 代 ア ジ ア と 日 本	2	○											
	ア ジ ア の 民 族	2	○											
	社 会 と 宗 教	2	○											
	日 本 の 文 化	2		○										
	ヨ ー ロ ッ パ の 言 語 と 文 化	2			○									
	ア メ リ カ の 言 語 と 文 化	2				○								
	ア ジ ア の 言 語 と 文 化	2		○										
	異文化間コミュニケーション論	2	○											
	科 学 と 技 術	2			○									
	自 然 と 社 会	2	○											
	環 境 と 開 発 I	2	○											
	環 境 と 開 発 II	2	○											
	ボ ラ ン テ ィ ア 入 門	2	○											
	体 育 科 学	2	○											
	ス ポ ー ツ と ト レ ー ニ ン グ	2			○									
	気 功 と 太 極 拳 I	1	○											
	気 功 と 太 極 拳 II	1		○										
	中 国 事 情 I	2	○											
	中 国 事 情 II	2		○										
	中 国 事 情 III	2		○										
	国 際 事 情 I	2	○											
	国 際 事 情 II	2			○									
	日 本 事 情 I	2		○										
	日 本 事 情 II	2			○									
	日 本 史	2			○									
外 国 史	2			○										
地 理 学 通 論	1			○										
地 誌 学	1			○										

外国語科目

区分	科目名	単位数	配当セメスター								履修要件	備考
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ		
外国語科目	中国語 I	1	○								16 単位必修 ただし、中国語を母国語とする外国人留学生を除く。	中国現地プログラム
	中国語 II	1	○									
	中国語 III	1	○									
	中国語 IV	1	○									
	中国語 V	1		○								
	中国語 VI	1		○								
	中国語 VII	1		○								
	中国語 VIII	1		○								
	中国語 IX	1		○								
	中国語 X	1		○								
	中国語 XI	1		○								
	中国語 XII	1		○								
	中国語 XIII	1			○							
	中国語 XIV	1			○							
	中国語 XV	1			○							
	中国語 XVI	1			○							
外国語科目	英語 I	1	○								6 単位必修 中国語を母国語とする外国人留学生のみ。	
	英語 II	1	○									
	英語 III	1	○									
	英語 IV	1		○								
	英語 V	1		○								
	英語 VI	1		○								
外国語科目	ドイツ語 I	1			○							
	ドイツ語 II	1			○							
	ドイツ語 III	1				○						
	ドイツ語 IV	1				○						
外国語科目	フランス語 I	1			○							
	フランス語 II	1			○							
	フランス語 III	1				○						
	フランス語 IV	1				○						

外国語科目

区分	科目名	単位数	配当セメスター								履修要件	備考
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ		
外国語科目	ロシア語Ⅰ	1		○								
	ロシア語Ⅱ	1		○								
	ロシア語Ⅲ	1			○							
	ロシア語Ⅳ	1			○							
	コリア語Ⅰ	1		○								
	コリア語Ⅱ	1		○								
	コリア語Ⅲ	1			○							
	コリア語Ⅳ	1			○							
	日本語Ⅰ	1	○									10 単 位 必 修 外国人留学生 のみ。
	日本語Ⅱ	1	○									
日本語Ⅲ	1	○										
日本語Ⅳ	1	○										
日本語Ⅴ	1		○	○								
日本語Ⅵ	1		○	○								
日本語Ⅶ	1		○	○								
日本語Ⅷ	1		○	○								
日本語Ⅸ	1			○	○							
日本語Ⅹ	1			○	○							

1. 中国語を母国語とする外国人留学生は、中国語16単位に代えて日本語10単位及び英語6単位を修得しなければならない。
2. 中国語以外を母国語とする外国人留学生は、中国語16単位及び日本語10単位を修得しなければならない。

情報処理科目・基幹科目

区分	科目名	単位数	配 当 セ メ ス タ ー								コース別履修要件			備 考
			1年次		2年次		3年次		4年次		政治経済 コース	言語文化 コース	国際関係 コース	
			1 セメ	2 セメ	3 セメ	4 セメ	5 セメ	6 セメ	7 セメ	8 セメ				
情報処理科目	情報基礎	2	○							必修 4 単位 以上	必修 4 単位 以上	必修 4 単位 以上		
	情報処理演習Ⅰ	2	○											
	情報処理演習Ⅱ	2			○									
	社会情報システム論	2			○									
基 幹 科 目	中国研究入門	2		○						必修 必修 30 単 位 以 上	必修 必修 30 単 位 以 上	必修 必修 30 単 位 以 上		
	社会調査入門	2					○							
	現地研究調査基礎	2					○							
	会 社 法	2			○									
	現代中国学原論	4	○											
	現 代 中 国 論	2		○										
	国際関係総論	2				○								
	中国政治論	2				○								
	中国経済論	2			○									
	中国社会学	2				○								
	中国社会史	2					○							
	中国史概説	2					○							
	中国思想史概説	2					○							
	中国近現代史	2			○									
	中国文学概説	2						○						
	中国地理	2						○						
	日中関係論	2	○											
	日中比較法学	2				○								
	日中戦争史	2	○											
	中国文化論	2						○						
	時事ビジネス中国語Ⅰ	2				○								
	時事ビジネス中国語Ⅱ	2					○							
	コミュニケーション中国語Ⅰ	2				○								
コミュニケーション中国語Ⅱ	2					○								
時事ビジネス英語Ⅰ	2					○								
時事ビジネス英語Ⅱ	2						○							
コミュニケーション英語Ⅰ	2			○										
コミュニケーション英語Ⅱ	2				○									

応用・発展科目

区 分	科 目 名	単 位 数	配 当 セ メ ス タ ー								コース別履修要件			備 考
			1年次		2年次		3年次		4年次		政治 経済 コース	言語 文化 コース	国際 関係 コース	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ				
応 用	中国政治過程論	2			○					いずれか20単位以上				
	中国政治思想史	4						○						
	中国法概説	2			○									
	中国法Ⅰ	2				○								
	中国法Ⅱ	2					○							
	中国体制改革	4						○						
	中国産業論	2				○								
	中国農業論	2				○								
	中国の経営経済	4					○							
	中国の企業管理	2			○									
	中国対外経済関係論	2						○						
中国貿易論	2			○										
発 展 目 的	中国語表現論	2			○					いずれか20単位以上				
	中国語文法論	2			○									
	中国語語彙論	2				○								
	中国文学作家研究	2				○								
	専門中国語Ⅰ	4				○								
	専門中国語Ⅱ	4					○							
	中国文学作品研究	2		○										
	中国現代文研究	4				○								
	中国古典文研究	2				○								
	中国芸術文化論	2				○								
アジア比較文化論	2						○							
アジア文化論	2						○							
国 際 関 係 コ ー ス	東アジア国際関係史	2		○						いずれか20単位以上				
	東アジア国際政治	4				○								
	東アジア国際平和学	2				○								
	南北問題	2					○							
	国際法	2			○									
	国際文化論Ⅰ	2			○									
	国際文化論Ⅱ	2				○								
国際経済学	2			○										

応用・発展科目

区分	科目名	単位数	配当セメスター								コース別履修要件			備考	
			1年次		2年次		3年次		4年次		政治経済コース	言語文化コース	国際関係コース		
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ					
応用・発展科目	国際関係コース	華人経済論					○								
		発展途上国経済論						○							
		国際協力論						○							
		東アジア比較経済論						○							
	応用・発展各コース共通		学校文化論		○										
			教育問題の思想史研究		○										
			学校問題の法規・行政史研究		○										
			授業コミュニケーション論(言語系)Ⅰ		○										
			授業コミュニケーション論(社会系)		○										
			授業構成法演習(中国語)Ⅰ		○										
			教育コミュニケーション研究Ⅰ(道徳)		○										
			教育コミュニケーション研究Ⅱ(特別活動)		○										
		教育コミュニケーション研究Ⅲ(生徒指導)		○											

※「応用・発展各コース共通」は教職課程履修者のみ履修可とする。

現代中国学演習

区分	科目名	単位数	配当セメスター								コース別履修要件			備考
			1年次		2年次		3年次		4年次		政治経済コース	言語文化コース	国際関係コース	
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ				
現代中国学演習	入門ゼミ	2	○											
	基礎演習	2		○										
	専門演習Ⅰ	4					○							
	専門演習Ⅱ	4							○					
	中国現地研究調査	4						○						
	卒業研究	8							○					

2002～2005年度カリキュラム (基本科目は省略)

外国語科目

区分	科目名	単位数	配 当 セ メ ス タ ー								履 修 要 件	備 考
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ		
中国語	中国語発音Ⅰ	1	○								16単位必修 ただし、中国語を母語とする外国人留学生を除く。	全員履修 中国現地プログラム
	中国語発音Ⅱ	1		○								
	中国語Ⅰ	1	○									
	中国語Ⅱ	1	○									
	中国語Ⅲ	1	○									
	中国語Ⅳ	1	○									
	中国語Ⅴ	1		○								
	中国語Ⅵ	1		○								
	中国語Ⅶ	1		○								
	中国語Ⅷ	1		○								
	中国語Ⅸ	1			○							
	中国語Ⅹ	1			○							
	中国語Ⅺ	1			○							
	中国語Ⅻ	1			○							
	中国語Ⅼ	1			○							
	中国語Ⅽ	1			○							
英語	英語Ⅰ(ディクテーション)	1	○								必修 必修	外国人留学生は選択
	英語Ⅱ(ディクテーション)	1		○								
	英語Ⅲ(メディア英語)	1	○									
	英語Ⅳ(メディア英語)	1		○								
	英語Ⅴ(TOEIC・TOEFL)	1	○									
	英語Ⅵ(TOEIC・TOEFL)	1		○								
	英語Ⅶ(上級)	1	○									
	英語Ⅷ(上級)	1		○								
	英語Ⅸ(プレゼンテーション)	1					○					
	英語Ⅹ(プレゼンテーション)	1						○				
ドイツ語	ドイツ語Ⅰ	1				○						
	ドイツ語Ⅱ	1					○					
	ドイツ語Ⅲ	1						○				
	ドイツ語Ⅳ	1							○			
フランス語	フランス語Ⅰ	1				○						
	フランス語Ⅱ	1					○					
	フランス語Ⅲ	1						○				
	フランス語Ⅳ	1							○			
ロシア語	ロシア語Ⅰ	1				○						
	ロシア語Ⅱ	1					○					
	ロシア語Ⅲ	1						○				
	ロシア語Ⅳ	1							○			

外国語科目

区分	科目名	単位数	配当セメスター								履修要件	備考	
			1年次		2年次		3年次		4年次				
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ			
韓国・朝鮮語	韓国・朝鮮語Ⅰ	1					○						
	韓国・朝鮮語Ⅱ	1						○					
	韓国・朝鮮語Ⅲ	1							○				
	韓国・朝鮮語Ⅳ	1									○		
日本語	日本語Ⅰ	1	○										
	日本語Ⅱ	1	○										
	日本語Ⅲ	1		○									
	日本語Ⅳ	1		○									
	日本語Ⅴ	1	◆		○								
	日本語Ⅵ	1		◆	○								
	日本語Ⅶ	1				○							
	日本語Ⅷ	1				○							
	専門日本語Ⅰ	2					○						
	専門日本語Ⅱ	2						○					
	専門日本語Ⅲ	2						○					
	専門日本語Ⅳ	2							○				
8単位必修											外国人留学生のみ	◆印は中国語以外を母語とする外国人留学生のみ履修	

体育科目

科目名	単位数	配当セメスター								履修要件	備考	
		1年次		2年次		3年次		4年次				
		1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ			
ヘルスプロモーション	2	○									必修 必修 いずれか4単位以上	中国現地プログラム
ヘルスエクササイズⅠ	1		○									
ヘルスエクササイズⅡ	1				○							
ヘルスエクササイズⅢ	1					○						
太極拳	1			○								
中国武術Ⅰ	1			○								
中国武術Ⅱ	1				○							

応用・発展科目

区 分	科 目 名	単 位 数	配 当 セ メ ス タ ー								履 修 区 分				履 修 要 件	備 考
			1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		政 治 経 済 コ ー ス	言 語 文 化 コ ー ス	国 際 関 係 コ ー ス	日 中 ビ ジ ネ ス コ ー ス		
			1 七 月	2 七 月	3 七 月	4 七 月	5 七 月	6 七 月	7 七 月	8 七 月						
政 治 経 済 部 門	中 国 政 治 過 程 論	2				○					●		●	●		
	中 国 政 治 思 想 史 I	2				○					●	●				
	中 国 政 治 思 想 史 II	2					○				●	●				
	中 国 法 概 説	2				○					●		●	●		
	中 国 法 I	2						○			●					
	中 国 法 II	2							○		●					
	中 国 体 制 改 革 I	2				○					●		●	●		
	中 国 体 制 改 革 II	2					○				●		●	●		
	中 国 行 政 論	2						○			●		●			
	中 国 産 業 論	2				○					●		●	●		
	中 国 財 政 ・ 金 融 論	2					○				●		●	●		
	中 国 農 業 論	2					○				●		●			
	中 国 地 理	2				○					●	●	●	●		
中 国 企 業 論 I	2				○					●		●				
中 国 企 業 論 II	2						○			●		●				
言 語 文 化 部 門	中 国 語 表 現 論	2				○					●				●の付いているものから26単位以上	
	中 国 語 文 法 論	2					○				●					
	中 国 語 語 彙 論	2					○				●					
	ビ ン ナ ン 語 I	2					○				●					
	ビ ン ナ ン 語 II	2						○			●					
	中 国 語 方 言 I	2					○				●					
	中 国 語 方 言 II	2						○			●					
	中 国 現 代 文 学 作 家 研 究	2					○				●					
	中 国 現 代 文 学 作 品 研 究	2				○					●					
	中 国 現 代 文 研 究 I	2				○					●					
	中 国 現 代 文 研 究 II	2					○				●					
	中 国 古 典 思 想 研 究	2				○					●					
	中 国 古 典 文 学 研 究	2				○					●					
中 国 芸 術 文 化 論	2				○					●						
中 国 民 俗 学	2				○					●	●	●				
中 国 史 研 究	2						○			●	●	●				
中 国 文 化 論	2						○			●						
国 際 関 係 部 門	東 ア ジ ア 国 際 政 治	2				○					●		●			
	南 北 問 題	2					○					●	●			
	国 際 関 係 法	2				○						●	●	●		
	国 際 文 化 論 I	2					○				●	●				
	国 際 文 化 論 II	2						○			●	●				
	東 ア ジ ア 経 済 論	2						○			●		●	●		
	日 本 外 交 論	2				○						●	●	●		
中 国 外 交 論 I	2					○				●		●				
中 国 外 交 論 II	2						○			●		●				

応用・発展科目

区 分	科 目 名	単 位 数	配 当 セ メ ス タ ー								履 修 区 分				履 修 要 件	備 考
			1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		政 治 経 済 コ ー ス	言 語 文 化 コ ー ス	国 際 関 係 コ ー ス	日 中 ビ ジ ネ ス コ ー ス		
			1 七 月	2 七 月	3 七 月	4 七 月	5 七 月	6 七 月	7 七 月	8 七 月						
国 際 関 係 部 門	平 和 学	2			○							●				
	朝 鮮 半 島 政 治 論	2						○				●				
	ア ジ ア 金 融 論	2						○				●	●			
	発 展 途 上 国 経 済 論 I	2						○				●	●			
	発 展 途 上 国 経 済 論 II	2						○				●	●			
発 展 途 上 国 経 済 論 III	2						○				●	●				
日 中 ビ ジ ネ ス 部 門	中 国 貿 易 ・ 投 資 論 I	2			○							●	●	●		
	中 国 貿 易 ・ 投 資 論 II	2				○						●	●	●		
	日 中 ビ ジ ネ ス 論 I	2				○						●	●	●		
	日 中 ビ ジ ネ ス 論 II	2					○					●	●	●		
	華 人 企 業 経 済 論	2					○					●	●	●		
日 中 比 較 経 営 論	2					○					●	●	●			
中 国 語 イ ン テ ン シ ョ ン	中 国 語 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン I	2			○							選 抜 試 験 合 格 者 の み 履 修 可				
	中 国 語 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン II	2				○										
	中 国 語 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン III	2					○									
	翻 訳 と 解 釈	2					○									
	同 時 通 訳	2					○									
コ ー ス 共 通 部 門	現 代 中 国 学 特 殊 講 義 I	2			○							コ ー ス 共 通 科 目				
	現 代 中 国 学 特 殊 講 義 II	2				○										
	現 代 中 国 学 特 殊 講 義 III	2					○									
	現 代 中 国 学 特 殊 講 義 IV	2						○								
	外 国 書 講 読 I	2				○										
	外 国 書 講 読 II	2					○									
	外 国 書 講 読 III	2						○								
	海 外 セ ミ ナ ー B (英 語)	4														
	海 外 セ ミ ナ ー B (ド イ ツ 語)	4														
	海 外 セ ミ ナ ー B (フ ラ ン ス 語)	4														
	海 外 セ ミ ナ ー B (中 国 語)	4														
	海 外 セ ミ ナ ー B (韓 国 語)	4														
	外 国 理 解 B (英 語 圏)	4														
	外 国 理 解 B (ド イ ツ 語 圏)	4														
外 国 理 解 B (フ ラ ン ス 語 圏)	4															
外 国 理 解 B (中 国 語 圏)	4															
外 国 理 解 B (韓 国 語 圏)	4															

海外短期
語学セミ
ナー学修
成果認定
用科目留学学修
成果認定
用科目

2006年度～カリキュラム（共通教育科目は省略）

専門教育科目

区分	科目名	単位数	セメスター								コース別履修要件			備考	
			1年次		2年次		3年次		4年次		ビジネス	言語文化	国際関係		
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ					
専門 共通 部門	中国研究入門Ⅰ	2	○												全員履修
	中国研究入門Ⅱ	2		○											
	現代日本社会論	2	○												
	現代中国学原論	2	○												
	国際社会調査論	2					○								
	現地研究実習基礎	2					○								
	中国地理	2				○									
	経済の基礎	2		○						必修					
	経営の基礎	2		○						必修					
	情報産業業論	2				○									
	中国思想概説	2		○											
	中国語学概説	2				○									
	中国文学概説	2		○											
	中国前近代史	2				○									
	中国近現代史	2			○										
	国際関係論	2			○										
	中国法概説	2				○									
	日中戦争史	2		○											
	日中関係論	2	○												
	中国政治論	2		○											
コミュニケーション中国語Ⅰ	2				○										
コミュニケーション中国語Ⅱ	2					○									
日中ビジネス会話Ⅰ	2				○										
日中ビジネス会話Ⅱ	2					○									
ビジネス部門	中国近代経済史	2				○									
	中国現代経済史	2					○								
	中国体制改革	2				○									
	中国経済改革	2					○								
	中国経済論	2				○									
	中国産業論	2				○									
	中国農業論	2			○										
	中国農民経済論	2				○									
	中国企業論	2			○										
	中国貿易論	2				○									
	中国投資論	2					○								
	華人企業経済論	2			○										
言語文化部門	日中ビジネス基礎論	2					○								
	日中ビジネス実践論	2						○							
	日中比較経営論	2							○						
	中国現代文学史	2				○									
	中国語表現論	2					○								
	中国語文法論	2				○									
	中国語語彙論	2						○							
	中国語社会史	2					○								
中国教育論	2			○											

専門教育科目

区分	科目名	単位数	セメスター								コース別履修要件			備考	
			1年次		2年次		3年次		4年次		ビジネス	言語文化	国際関係		
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ					
言語文化部門	ビナン語 I	2		○											
	ビナン語 II	2			○										
	中国語方言 I	2			○										
	中国語方言 II	2				○									
	中国現代文学論	2					○								
	華人現代文学論	2						○							
	中国古典文論	2				○									
東アジア古典芸術論	2					○									
東アジア現代芸術論	2						○								
中国民俗	2				○										
国際関係部門	南北問題	2			○										
	開発経済学	2				○									
	国際文化論	2				○									
	平和学	2					○								
	日本外交論	2						○							
	東アジア国際政治	2						○							
	東アジア経済論	2					○								
	発展途上国経済論	2							○						
	アジア社会論	2								○					
	中国外交論	2									○				
	中国政治体制論	2						○							
	国際経済学	2							○						
中国語強化部門	中国語発音 I	2													
	中国語発音 II	2													
	中国語プレゼンテーション I	2													
	中国語プレゼンテーション II	2													
	中国語プレゼンテーション III	2													
	上級中国語 III	2													
外国書読	外国書講読 I	2				○									
	外国書講読 II	2					○								
外国書読	中国現地研究実習	4													履修制限科目
語学部門	中国語発音 I	1	○												
	中国語発音 II	1		○											
	中国語 I	1	○							必修	必修	必修			
	中国語 II	1	○							必修	必修	必修			
	中国語 III	1	○							必修	必修	必修			
	中国語 IV	1	○							必修	必修	必修			
	中国語 V	1		○						必修	必修	必修			
	中国語 VI	1		○						必修	必修	必修			
中国語 VII	1		○						必修	必修	必修				
中国語 VIII	1		○						必修	必修	必修				

専門教育科目

区分	科目名	単位数	セメスター														
			1年次		2年次		3年次		4年次								
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ							
語学部門	中国語Ⅸ	1			○							必修 必修 必修	必修 必修 必修	必修 必修 必修	中国現地プログラム(必修)		
	中国語Ⅹ	1			○												
	中国語Ⅺ	1			○												
	中国語Ⅻ	1			○												
	中国語Ⅼ	1			○												
	中国語Ⅽ	1			○												
	英語リスニング	1				○											
	実用オフィス英語Ⅰ	2				○											
実用オフィス英語Ⅱ	2					○											
演習部門	入門演習	2	◇									必修 必修 必修 必修 必修	必修 必修 必修 必修 必修	いずれか12単位以上	いずれか12単位以上	いずれか12単位以上	全員履修
	基礎演習	2		◇													
	ブレ演習	2			◇	◇											
	専門演習Ⅰ	2					○										
	専門演習Ⅱ	2						○									
	専門演習Ⅲ	2							○								
	専門演習Ⅳ	2								○							
卒業業務研究	4								○								
関口中国連合ラ部門	現地プログラム基礎	2		○								必修 必修 必修 必修	必修 必修 必修 必修	いずれか12単位以上	いずれか12単位以上	中国現地プログラム	
	現地プログラム生活事前教育	2		○													
	現地実習入門	1			○												
	中国文化講座	2			○												
現代中国社会論	2			○													
中国語情報部門	ネットワーク情報論	2	○									いずれか2単位			いずれか1科目のみ履修可		
	ソフトウェア演習	2	○														
その他	現代中国学特殊講義	2			○											⑩	
	日中企業研修	2					○										
他学部門	国際法総論Ⅰ	2			○												
	国際法総論Ⅱ	2				○											
	経営学総論	2	○														
	現代日本の企業経営	2	○														
	現代企業の経営環境	2		○													
	会計学基礎理論	2			○												
科教職課程	授業コミュニケーション論(言語系)	2			○											教職課程履修者のみ履修可	
	授業コミュニケーション論(社会系)	2			○												
	授業構成法(社会系・地歴分野)	2			○												
	授業構成法演習(中国語)Ⅰ	2					○										

※ ◇：配当されたセメスターのみ履修できる科目。

⑩：インターンシップ学修成果認定用科目。